

国際日本学部 2023 年度夏期 海外ボランティア・プログラム

参加報告書（インドネシア・ブディルフル大学）

① 本プログラム参加のきっかけ・目的について（200 字以上）

私はこのプログラムに参加するまで海外渡航経験が無かった。現在ではインターネットや交通網が発達し、海外の方々と交流したり、海外製品を購入したり、現地に行かずとも異文化を体験することが簡単にできる。しかし、大学で日本や海外について学ぶ中で、日本とは異なる当たり前や価値観、文化を間接的にではなく、直接肌で味わいたい、そして外から見た日本を知りたいという思いが強くなった。そのため、ボランティア活動を通して現地の学生や地域の方々と文化交流できるプログラム内容はとても魅力的で、また、若い世代を中心に勢いのあるインドネシアでの体験は必ず良い刺激になると思い、このプログラムに参加した。

② プログラム内容について（各項目 200 字以上）

1. ボランティア活動・ワークショップについて

8月15日、16日の2日間にかけて、ブディルフル大学キャンパスにて開催されたワークショップのボランティアに参加した。ワークショップの参加者は中学生から大学生と幅広く、私たちは持参した浴衣を着用してボランティア活動をした。基本的に明治大学の学生3人とブディルフル大学の学生2人で一組となり、各組20人程の参加者に日本の文化を教えた。ワークショップの内容は「Kimekomi」、「Katakana」、「Japanese」、「Takoyaki」の4つで、授業時間は各1時間だった。各クラスの授業方法については事前研修があり、また、当日もブディルフル大学の先生や学生が具体的な段取りを指示して下さったので、臨機応変に対応することができた。「Katakana」では習字で「やばい」や「それな」等の若者言葉や自分の名前をカタカナで書く練習をした。「Japanese」では簡単な挨拶、数の数え方などを教えた。参加者は学校や独学で日本語を勉強している人も多く、もう少し踏み込んだ内容を教えても良かったと感じた。たこ焼きでは1回目で作り方を実演し、2回目ですべて実際にたこ焼きづくりを体験してもらった。たこ焼きはインドネシアでもお菓子として親しまれているようで、参加者の皆さんは回すのがとても上手だった。完成したたこ焼きを実際に食べ、おいしいと喜んでくれた姿を見て、とても嬉しく感じた。日本とは異なり、キャベツを入れないので、丸くするために生地を多めに加える必要があった。また、チーズを中に入れるのでチーズが溶けて、しっかり火が通っているのか判断が難しかった。ワークショップの教室にはブディルフル大学の方が日本の行事や風習に関連した写真を掲示して下さいだったので、その写真を見せながら日本について紹介した。参加者の中には自作の漫画を持ってきてくれた方もいて、日本の文化が海外でも親しまれていることを実感した。8月23日にはブディルフル大学の付属中学校にて日本の文化を伝えるボランティア活動をした。2人一組となり、6人程度の中学生に折り紙とたこ焼きを教えた。折り紙では猫の名札、手裏剣、紙飛行機を折った。名札にカタカナで一人ひとりの名前を書いてあげたところ、とても喜んでくれた。たこ焼きはワークショップと同様

に、1 回目に作り方を実演し、2 回目は中学生に実践してもらった。また、3 週間のプログラムで 3 回、お弁当配布のボランティア活動をした。最初の 2 回はインドネシア料理で、1 回あたりに作るメニューは 3 つだった。3 つのグループに分かれて、先生が実演して下さったとおりに作った。3 回目は自分たちで考えた日本食のお弁当だった。私は当日体調不良で不参加だったが、私たちが考えたメニューは肉じゃが、マヨネーズサラダ、卵焼きだ。お弁当はブディルフル大学のキャンパス前で街行く人々に配布した。道端で休憩しているや商売をしている人だけでなく、車やバイクに乗っている人も集まってきてくださり、日本ではあまりない「配食」の文化がインドネシアでは大事な活動なのだと感じた。

2. 授業（インドネシアの歴史や文化、インドネシア語）について

私たちは歌、ダンス、インドネシア語の 3 クラスを受講した。授業は各回 1 時間ほどだった。歌とダンスは最後のフェアウェルパーティーで実際に披露するために練習した。歌はいくつかのインドネシアの歌とその日本語バージョンが組み合わせられたオリジナルソングだった。インドネシアの曲に日本語バージョンがあることを初めて知り、インドネシアと日本の友好関係が文化にも表れているのだと感じた。ダンスではインドネシアの曲に合わせてインドネシアらしいゆったりとしたダンスを踊った。簡単な振り付けで、講師の方が練習しながら全体の動きを作ってくれた。最後にインドネシア語の授業では簡単な挨拶や「～が欲しい」「～が好き」など、実際に役立つフレーズを学んだ。学んだフレーズは実際に現地の学生や地域の方々と交流する際に役立ち、英語ではなく現地の言葉を話すことで心の距離が縮まることを実感した。

3. フィールドトリップ（バンドンツアー）について

8 月 20 日、21 日の一泊 2 日で、バンドンツアーに行った。大学のバスで高速に乗り、3 時間ほどだった。1 日目の夕方にバンドンの街中を散策した。バンドンは日本の京都にあたるそうで、アートギャラリーやカフェが立ち並ぶ芸術の街だった。2 日目の朝も全員で散策する予定だったが中止だったので、各自でホテル近くを散策した。朝の公園ではウォーキングをしている人等、日常の様子を見ることができた。朝食のバイキングではインドネシアの料理を堪能することができた。日本のアニメが好きだというホテルマンの方が日本語で声を掛けてくださり、とても嬉しく感じた。最後に伝統的な Performance を鑑賞した。各地の伝統衣装やダンスを披露して下さったが、特にバリ島の伝統舞踊が印象的だった。お面を口にくわえて固定しながら踊る必要があると言い、踊り切った女の子たちの技術が素晴らしいと感じた。5 歳ほどの小さな子どもたちも踊りや演奏をしてくれて、インドネシアの伝統を重んじる姿勢を感じられた。Performance の最後には伝統楽器の演奏を体験した。会場にいる全員で演奏し、音が重なったときはとても身が震え、忘れられない思い出となった。

③ 本プログラムを終えての学習成果・感想（200 字以上）

インドネシアの人はルールに対してかなりルーズで運転免許を所持していなくても、また小さな子供でもバイクを運転してしまうという突拍子の無さに驚いたが、それがインドネシアの方々の寛容さに繋がっているのだとも感じた。現地では慣れない生活の中、体調を崩すことも多かった。しかし、どんな時も仲間や先生方、日本にいる家族が私を支えてくれて、その存在の大きさを感じた。また、インドネシアでは特別な行事の際に必ず伝統舞踊と国歌を披露する文化があるようだった。こうした愛国心の強さが、皆で

楽しもうという雰囲気を作り出しているのだと思われた。決して良い環境とは言えないが現状を悲観するのではなく、「今を楽しもう」という前向きな姿勢で学ぶ意欲にあふれるインドネシアの方々を目にして、恵まれた環境があるにもかかわらず物事を悲観してばかりいた自分が恥ずかしくなった。また、日本の文化が海外でも親しまれている様子を見て、私は日本人であるにも関わらず日本のことを全然知らないと感じた。まずは日本についてもっと知りたい。特に今回のプログラムで実感したことは、言語の大切さだ。現地の方が日本語で話しかけてくれた時、また、インドネシア語で話しかけた時の現地の方々の喜んでくれた顔を見て、心の底から嬉しく感じた。私はこれから社会で必要な力だから英語ができなければならないと思い込んでいたが、本来他の言語を学ぶということは相手を知る 1 つの手段であって、そこに上手い下手は関係ないのだと感じた。インドネシアでの経験は何物にも代えられない宝物になった。

④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）

1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について

寮は外の門と玄関、各部屋に鍵をかけることができる。ただ、鍵が壊れている部屋もあった。毎日 10 時ごろに清掃の方が入るが、部屋は自分たちで清掃をするスタイルなので、部屋の鍵をかけることを忘れないようにすれば問題はないと思う。ほとんど移動はバスなので、スリに遭う心配もほぼなかった。大学では大学の先生や学生が荷物を見てくださったが、心配であれば貴重品だけ持ち運べる小さなかばんを持って行くといい。寮には特に洗面所からゴキブリが発生するので、心づもりと殺虫スプレーが必要だ。トイレは日本と異なり、タンクの上にある押しボタンを押して流すタイプだった。逆にウォシュレットが日本のトイレのレバーに似ているので、間違えてウォシュレットのレバーを引かないように注意してほしい。和式のトイレは日本よりも縦に短く使用しにくいので、洋式を使うのがおすすめだ。

2. 食事について

インドネシア料理はスパイシーでオイリーなので、2 週間目くらいになると胃腸の疲れを感じてくる。現地の方々がたくさん食べるように勧めてくれるが、無理は禁物なので体調を考えて丁寧に断ることも大切だ。また、インドネシアでは衛生的な問題のためか、あまり野菜を食べない。そのため、私は便秘と下痢を繰り返していた。ヨーグルトかヤクルトを購入し、胃腸の調子を整えるよう意識するとよい。寮のウォーターサーバーを含め基本的に硬水、特に AQUA というブランドが多かった。硬水でお腹を壊しやすい人は軟水の Pristine がおすすめだ。日本の整水技術を用いたブランドなのでとても飲みやすかった。水は最終的に 2 L 5 本ほど購入した。インドネシアにはお茶に砂糖が入っているのが普通だが、ノンシュガーのお茶もメニューに必ずあるので甘いのが苦手でも心配する必要はない。夕食は自分たちで用意する必要があったが、寮の周りに夕食をとれる飲食店はなかった。そのため、予め用意してくださったカップ麺やパン、持参した日本食で賄っていた。日本食はたくさん持って行って損はないと思う。私は 120 g 6 個入りのごはんパックとインスタントのお味噌汁を持って行ったが、レトルト製品やおかゆなどもあると便利だ。中には Grab や Gojek というアプリでご飯を頼んでいる人もいたが、割高な点に注意する必要がある。

3. 交通手段について

基本的に大学のバスで移動した。カーフリーデーの日に MRT を利用したが、駅にエアコンが効いていて寒いので薄手の上着を持って行くといよと思う。大学のバス以外では Grab や Gojek というアプリを用いて、自分でタクシーを呼ぶ必要があった。ただ、運転手の方が英語を話せる人ばかりではなく、迷子になったり、いつになっても迎えに来なかったりした。心配なら現地の先生に相談してタクシーを用意してもらうのも良いと思う。日本と異なり、信号や横断歩道が少なく、徒歩の場合はタイミングを見計らって道を渡る必要がある。

4. 通信環境について

寮の Wi-Fi は 2 階に設置されていたので、1 階の端の部屋だと接続が困難だった。キャンパスにも Wi-Fi はあるが、基本的に繋がらない。私は海外 SIM やポケット Wi-Fi ではなく、海外でもスマートフォンを使用できる契約会社の海外サービスを利用した。しかし、現地でうまく機能せず、Wi-fi 環境下でなければスマートフォンが使用できない状態だった。Wi-fi は使用できないと心づもりをした方が良い。

5. 買い物事情について

両替の際に 10 万ルピアの紙幣ばかりになってしまったので、スーパーやコンビニで買い物をする際に崩すよう心掛けていた。硬貨はメジャーではなく、細かい単位はうまく調整されて紙幣できりがよく支払える場合がほとんどだった。その分、帳尻が合わないこともあり、私の場合は 30 万ルピア分帳尻が合わなかった。お金の勘定がルーズなので、毎回確認を怠らないことが大事だと思う。日用品はビンタローモール、寮近くのアルファマートというコンビニで調達していた。ガイドブックに記載されているようなお土産を購入する機会はほとんどないので、購入したい場合は休日にグランドインドネシアなど、大きなモールに連れて行ってもらうといよと思う。私は 4 万円分両替したが、最終的に使ったのは 2 万円弱ほどだった。

6. 医療事情について

7. その他、生活等に関して参考となることがあれば教えてください。

(6. 医療事情について) 病院にすぐ行く文化ではないが、体調が悪ければ無理にボランティアに参加せず休む判断をすることも必要だと思う。私は最終的に体調不良で 4 日間休養したのだが、現地の先生が寮にその日の朝食と昼食を届けてくださった。アメーバ赤痢になった際は食後に 5 回以上トイレに行かなければならないほど症状が異常だった。しかし、病院に掛かり、専門薬を処方していただいたことで症状が軽くなったところで帰国ができた。私がかかったアメーバの場合、出し切ってしまうのが一番良いそうなので、少しでもただの体調不良ではないと感じたら、早めに病院に掛かることをお勧めする。私たちは現地の先生が予約や病院までのタクシーを手配してくださった。J Clinic は提携病院なのでお金を払う必要もなく、先生が日本語を話すことができ、さらに日本人の看護師の方もいるので、とても安心できた。現地には体調が優れず、食欲がないときの食事がほとんどない。そのため、のどに何も通らず食べられなかったのも、私の体調が回復するのに時間がかかった原因だと思う。可能であればゼリー飲料・イオン飲料のもと・スティックのだし・塩分タブレット・レトルトのおかゆなどを持って行くといよ。また、大気汚染や砂ぼこりで目が痛くなるので、目薬が必需品だ。(7. その他) お腹を壊すことが洗礼な分、衛生面の対策を綿密にした方が良いと思う。具体的には寮にハンドソープが無いので買い足しておいたり、蛇口の水が安全でないので除菌シートを多めに持って行ったりするといよと思う。ランドリーに

靴下等、小さな洗濯物を出すと返ってこないケースがあるので、下着や靴下は出さずに自分で選択できる洗濯洗剤を持って行くといい。下痢をしているときは下着が汚れていないか衛生面が気になると思うので、女の子なら生理用品を多く持って行くことをお勧めする。私は初期からずっと下痢の症状があったので、生理用品をずっとつけていた。独立記念日の伝統衣装を着るフェアウェルパーティーなど、長時間トイレに行けない時もあるため、抵抗はあると思うが紙おむつを持って行くのも良いかもしれない。トイレのごみ箱は蓋つきではなかったため、自分の出すゴミが気になる場合は不透明な小さいビニール袋を多めに持って行く方が良い。私はサニタリー用にもなる不透明なビニール袋 50 枚入を持って行った。使い切りはしなかったが、半分ほど使用した。また、現地の先生とのやり取りは Whatup だが、現地の学生の間ではインスタグラムが主流で Whatup は初対面だと交換しないようだった。私はインスタグラムのアカウントを持っておらず、現地ではアカウント作成ができなかったため、持っていない人はあらかじめ作成しておくことと連絡先が交換出来て良いと思う。虫よけスプレーは日本から持ってきたので事足りたが、現地では Autan というクリームタイプの虫よけをよく使うらしい。

以上